

アトミック力 #3



御挨拶

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多忙中にもかかわらず、多数の方々のご来場をいただきまして誠にありがとうございます。

この定期演奏会も、回を重ねること第3回目を迎える事が出来ました。今回は、指揮者に加藤完二氏を、又チェロ独奏に河野文昭氏をお迎えし、先生方のご指導のもと厳しい練習を積み重ね、本日その成果を存分に披露してくれるものと期待致しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田 之宏

本日はお忙しい中、京都フィロムジカ管弦楽団第3回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

オーケストラは一人でできません。だからこそ私達はオーケストラをやるのでしょうか。（一人でできず、独りでやるのか、己の感性、人間集団、同調なの協調なの、あるいは狭間、コラボレーション・共同感覚、最大公倍数とは？、定数以上を包含する「集合無意識」…）オーケストラと共に、音楽か、人間のアイジョウか。面白いですね。もっと面白くなりたい。

最後になりましたが、様々に与えて下さった加藤先生・河野先生、そしてトレーナーの先生方、高瀬博章さん、関係者の方々、そして今日この会場に来て下さった皆様に心より感謝申し上げます。

京都フィロムジカ管弦楽団 代表 小林 香

プログラム

京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

第3回定期演奏会

1997年11月22日(土) 午後7時開演

京都府長岡京記念文化会館

ラヴェル：「古風なメヌエット」

Maurice Ravel : "Menuet Antique"

エルガー：「チェロ協奏曲」 ホ短調 作品85

Elgar : "Concerto for Violoncello and Orchestra in E minor Op.85"

I .Adagio-Moderato (atacca)

II .Allegro molto

III .Adagio

IV .Allegro-Moderato-Allegro, ma non troppo

チェロ独奏：河野 文昭

シベリウス：「交響曲第2番」 ニ長調 作品43

Jean Sibelius : "Symphony No.2 in D major Op.43"

I .Allegretto

II .Tempo andante, ma rubato

III .Vivacissimo

IV .Finale(Allegro moderato)

指揮：加藤 完二

ある指揮者のひとりごと。

ある日、フィロムジカというオーケストラから指揮の依頼があった。はっきり言って聞いたことがない。プロのオーケストラでは、寄せ集めのオケは一杯ある。しかしアマチュアと言うので最初は、多少不安であった。それから数日後主要なメンバーと顔合わせをした。第一印象は、『若い』の一言だった。やる気は、あったので少し楽しみになった。

しばらくして弦楽器の分奏の日、まだ譜面が行き届いてから日数がたってないので、まだ楽譜が読めてない。多少不安を残しつつ合宿へ参加。

ここでは、分奏以来日数が経っているので、譜面はそこそこ読めていた。

だけど、彼らの、熱意は、ひしひしと伝わって来て熱い手ごたえを感じた。

今回のこの3曲は、大変音楽の作り方が難しい大曲ばかり。今回僕が考えているのは、いかにしてドラマにできるか、アマチュアの演奏は、一生懸命演奏するのが聞いている人も、演奏している人も気持ちのいいものです。これでは、どこのオケでも出来ることです。今回注目してほしいのは、一生懸命しかもドラマ作りを大切に考えて行こうと思ってます。

特に、シベリウスは、楽譜から(ドラマ)動きが見えるような作曲しています。それが皆さんに見えるように演奏出来るかどうか、楽しみにしててください。

加藤完二



ある団員のつぶやき...

物事を整理したり説明したりする方法にはいろいろありますが、分類されたり断片化されたりしたものから全体を想像することはできるでしょうか？

【名詞】普通名詞、固有名詞、形容名詞に分けられる。代名詞、数詞を含これに含めることもある。

例：オーケストラ (普通名詞)；1、管弦楽。2、管弦楽を演奏する楽団。管弦楽団。

京都フィロムジカ管弦楽団 (固有名詞)；フィロムジカは philomusica と綴ります。philo ~は「~への愛」、「~を愛する」、musica は音楽です。音楽を愛するという単純かつ深い意味を含んだ名前です。

第三回 (数詞)；定期演奏会も第三回となり、「定期」という言葉が相応しくなってきました。メンバーには入れ替わりもありますが、大きな流れは変わらず、「気負わず楽しんで音楽をしよう」というものであるでしょう。

【動詞】動作、作用、状態、存在を表す。

例：演奏する (動作)；もちろんオーケストラですから演奏をします。第一回演奏会を迎えたころから較べると格段の進歩をしています。そのころにはこのオケのサウンドがどのようなものになってゆくのか見当もつきませんでした。回を重ねるにつけ、「フィロムジカの演奏」というものが生まれ、いつか生まれていくような気がします。

発展する (状態)；今のフィロムジカを表す言葉を探してみると、「発展している」という言葉がよくあてはまります。ダイエットをするとき、最初の一、二週間は順調に体重が減って、それからしばらく停滞期がやってくるという話を聞いたことがありますが、今のフィロムジカは「順調に体重が減っている時期」です。この先がとても楽しみです。ナイスバディーなオーケストラになりますように。

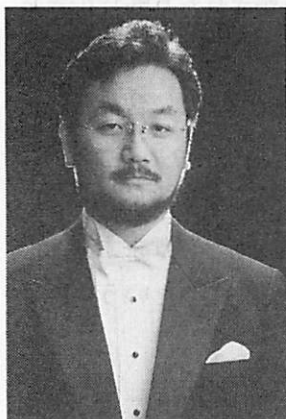
【形容詞】事物の性状や人間の感覚、感情を表す。

例：若い (性状を表す)；いろいろな面で若いオーケストラです。生まれてから一年半の若いオケとも言えますし、大学生が中心で運営しているという点でも若いオケだと言えます。

楽しい (感情を表す)；フィロムジカの練習は毎週日曜日で、快晴の日曜日の真昼に楽器を抱えて練習に向かう途中、「こんなにお天気のが良くて、せっかくのお休みの日になんで部屋の中で楽器を、、」と思って逃亡したくなる日もありますが、それでも皆んな練習にやってくるのはやはり楽しいからです。また、合宿の折には夜中（朝方近く？）まで即席アンサンブルをしたりするのもまた楽しいものです。

しかしオーケストラについて説明し、紹介しようとするのは非常に難しいことです。また、音楽をする団体である以上、最も雄弁なのはその演奏であるとも思えます。聴きに来て下さった方達に感謝するとともに、演奏から何かを感じていただければとても嬉しく思います。

客演指揮者・独奏者の紹介



客演指揮

加藤 完二

1957年京都に生まれる。4歳の頃よりヴァイオリンを始め尾島綾子、東儀幸各氏に師事。

1981年大阪音楽大学弦楽器専攻卒業。

在学中より辻井清幸氏に指揮法を師事し、卒業後関西二期会・関西歌劇団等で朝比奈隆・小泉和裕・手塚幸紀氏らの副指揮者として研鑽を積み本格的な指揮活動を開始。大阪音楽大学の学生オペラを指揮したのを皮切りに、和歌山・伊丹・奈良・福岡各地のオペラやオーケストラを指揮する。1987年渡米しボストンで行われたタングルウツド音楽祭に参加。1991年伊丹シティフィルハーモニー初代常任指揮者に就任。この年兵庫県より新進芸術家奨励賞を、伊丹市より芸術家協会新人奨励賞をそれぞれ受賞。1992年ルーマニアで行われた『第2回ディヌーニクレスク国際指揮者コンクール』において入賞及び審査員特別賞を受賞。1996年より京都市交響楽団の巡回コンサートや学校コンサートを指揮好評を得る。1998年(来年)12月にルーマニアのトゥルグ・ムレシュ市で行われる冬の音楽祭に、招待が決まりその他いくつかの国立交響楽団と共演予定。

現在、関西を中心に精力的に演奏活動を拡げるかたわら、後進やアマチュアの指導にも力を注いでいる。

現在、伊丹シティフィルハーモニー常任指揮者/クレフ室内管弦楽団主宰
大阪音楽大学非常勤講師

ロサンゼルス、ウィーンで研鑽を積み、暖かく深みのある響きは、聴く人の心に安らぎと感銘を

チェロ独奏

河野 文昭

与え、現在ソロ並びにアンサンブル of トウキョウ、紀尾井シンフォニエッタのメンバー他として室内楽で活躍。さらに、ゆふいん音楽祭の音楽監督、東京芸大助教授、京都芸大講師、日本音楽コンクール等の審査員を務め、演奏・企画・指導と幅広いアングルで意欲的に活動。



日本音楽コンクール第1位、また京都音楽賞、京都府文化賞など受賞多数。

練習指揮者とトレーナーの紹介

練習指揮者

高谷 光信

1977年、京都に生まれる。7才よりピアノを、13才よりトランペットを始める。

堀川高校音楽科（現・京都市立音楽高校）を経て現在大阪音楽大学音楽学部在籍。高校在学中に佐渡裕、小泉和裕氏の公開指揮講座に参加、薫陶を受け指揮者を志す。大学入学と同時に指揮の勉強を開始。1996年、ロシア、マリエル国立歌劇場首席指揮者 v. プラソロフ氏より指揮のレッスンを受ける。1997年4月、大阪音大カレッジ・オペラハウス公演広上淳一指揮歌劇「トスカ」で学生アシスタントとして参加、また同年同大学学生選抜オペラ松尾昌実指揮歌劇「フィガロの結婚」に指揮スタッフとして参加。指揮を伊吹新一、辻井清彦、蔵野雅彦に師事。

弦トレーナー

田畑 佳子

福岡女学院高等学校音楽科、

京都市立芸術大学音楽学科 卒業

ヴァイオリンを、緒方喜久子、中島三幾、松村英夫、梅原ひまり 各氏に師事。

木管トレーナー

岸 さやか

京都市立芸術大学音楽学部卒業。卒業演奏会に出演。ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。第1回、3回浜松管楽器アカデミーにて、宮本文昭、I.ゴリツキー氏のレッスンを受講。

オーボエを城石賢明、宮崎勇の両氏に師事。

金管トレーナー

植村 光雄

トロンボーン奏者。

大阪音楽大学卒業。

大阪トロンボーン・アンサンブルメンバー、ガブリエリ・プラスコンソートメンバー等、オーケストラ、室内楽で活躍。

曲目紹介

古風なメヌエット

M. ラヴェル (1875-1937)

1895年、ピアノ独奏曲として20歳のラヴェルによって生み出されたこの曲は、1929年に管弦楽曲に編曲され、翌年ラヴェル自身の指揮で、名門として知られるパリのラムルーオーケストラによって初演された。

トリオを含む A-B-A の形式で書かれており、自然的短音階が用いられることにより、アンティークな雰囲気が醸し出されている。この曲を作曲した当時シャブリエやサティに憧れる学生だったラヴェルは、この曲が初演された時には、彼らと肩を並べるフランスを代表する作曲家に成長していた。この曲には、宮廷で踊る貴婦人達を想像させながら、まだ何かを奥に秘めているのではないかと思わせる、彼独特のヴェールに包まれたような神秘的な美しさがある。ラヴェルが演奏される機会が多いのは、その曖昧さが演奏家の興味をかきたてるためであろう。

チェロ協奏曲 op85

E・エルガー (1857-1934)

サー・エドワード・エルガー、準男爵の称号をうけたことからわかるように、彼はイギリスが最も誇りとする大作曲家の1人である。しかし彼が作曲家として成功するまでは、しがない音楽教師として、また地元のアマチュア・オーケストラのヴァイオリン奏者や指揮者として生計を立てながら、作曲に励んでいた。1898年に、彼は名声を手にするきっかけとなった「謎変奏曲」を世の中に送りだした。

その後、「チェロ協奏曲」を作曲した1919年までの約20年間は彼の作曲家人生で最も華やかな時期であった。作曲家としての彼の世評の浮沈は、極めて激しく1910年に初演された「ヴァイオリン協奏曲」で圧倒的な人気を呼んでいたが、翌年の交響曲「第二番」で人気は下火になっていた。

1914年、第一次世界大戦が勃発した

世界の銘器をあなたのもとへ

あなたのパートナー選びは

ドルチェ楽器がお手伝いいたします。



株式会社ドルチェ楽器

〒530 大阪市北区茶屋町1-1 共徳梅田ビル2・3F

Tel: 06-377-1117

☎フリーダイヤル 0120-755-700

営業時間: 10:30am~7:30pm 定休日: 毎週木曜日

曲目紹介

ために創作意欲が衰えたエルガーだったが、1919年、再び創作力を取り戻した時期にこの曲が書かれ、事実上彼の最後の大作となった。

第一楽章 モデラート ホ短調 9/8

冒頭の荘重な独奏チェロがこの曲の表情を予告している。やがてその旋律は、ヴィオラが奏でる悲しみをせおった第一主題へ受け渡される。主題は様々に変化していき dim.の後静かに消えてそのまま第二楽章へ移行する。

第二楽章 アレグロ・モルト ト長調 4/4

エルガーの軽妙洒脱さに満ちた楽章である。十六分音符の軽快な第一主題は、独奏チェロの技巧を十分に発揮できる聴きごたえのあるものになっている。第二主題で穏やかな表情を見せたのち、再び十六分音符の爽快な変奏が高く低く駆けまわる。ピッツィカートの洒落た終わり方が印象的である。

第三楽章 アダージョ 変ロ長調 3/8

内面に向かっていくような瞑想的な楽章である。弱奏オーケストラの清らかな和声がチェロの溢れんばかりの魅力を一層引き立てている。中間部の情熱的な旋律が印象的である。

第四楽章 アレグロ ホ短調 2/4

チェロとオーケストラが一体となって統一を保った、力強い終楽章である。威勢のよい第一主題と、甘く美しい第二主題が絡み合い発展して、幻想的な楽想をつくり出す第一楽章冒頭のアダージョが現れたのち、アレグロ・モルトの緊迫した流れが力強く全曲を閉じる。

安達消化器科内科医院

京都市左京区下鴨東本町 DEMI-RAKUHOKU
☎(075) 712-5558

曲目紹介

《交響曲第2番》 二長調 op. 43

J. シベリウス (1865~1957)

シベリウスは1900年にパリで行われた大博覧会で、ヘルシンキのオーケストラと一緒に、新しいフィンランド音楽の作曲家、及び自作の指揮者としてデビューした。

この時演奏した<第一交響曲>、交響詩<フィンランディア>、<トゥオネラの白鳥>等で喝采を博し、初めて国際的な作曲家という評価を受けた。

この時以来、シベリウスにヨーロッパの各国から自作指揮の依頼が寄せられるようになり、以後20年間に及ぶたびたびの演奏旅行の生活が始まった。しかし名声が高まる反面、身边が多忙となり、その結果デリケートな彼の神経は、かなり故障を起していた。そのため翌年の冬は、イタリアで心身の静養をはかった。北国出身のシベリウスは、冬でも日差しの暖かいイタリアで第二交響曲を書き始めた。しかしスケジュールが先まで決まっていたため、作品の完成を待たずにドイツへ演奏旅行に行かなければならなかった。この頃から神経性の耳の異常に悩まされるようになっていた。演奏旅行から帰って来た後、フィンランドの南海岸のロヴィサという、幼少時を過ごした小さな町で休養しつつ作品の完成に力を入れた。秋が終わると、フィンランドはほとんど常闇の世界になり人々は自然から隔離されてしまう。明るい雰囲気が始まったこの第二交響曲が徐々に北国の憂愁に支配されてゆき、激しい嵐がたけり狂うような曲調になるのは、そうした作曲の時期と、環境の変化によるものかもしれない。第二交響曲が完成した1901年は、支配国ロシアの弾圧が高まり、公用語としてロシア語を強要し、完全にロシアの属国となることを迫った年であった。この交響曲は1902年にヘルシンキで初演され、大成功を収めた。聴衆は、この作品に込められているフィンランドの自然を愛する心や、ロシアの弾圧に決して屈さない誇り高い心を確かに感じたのだろう。ロシアの官憲は、この作品も交響詩<フィンランディア>同様に、



For School, Business or Pleasure
 ア・ブ・ク・ド・イングリッシュ スクール
 小学生から大人迄の英語専門教室
 〒607 地下鉄 東西線 御陵駅 下車
 徒歩 3分 協和荘301~302
 TEL + FAX 075-593-4426



阪急長岡天神駅前

Tel/Fax 075-951-0362

曲目紹介

危険な音楽としてマークしていたといわれている。

この曲は、シベリウスの友人でありパトロンでもあったアクセル・カルペラン男爵に献呈された。

第一楽章…アレグレット、ニ長調 6/4

ソナタ形式。冒頭に出現する動機風の短い楽句が印象的である。クラリネットとオーボエが素朴な民謡風の第一主題を奏しホルンがこれに答える。主要主題は、副主題と共に発展した後、冒頭の短い楽句が現われラレンタンで終わる。

第二楽章…テンポ・アンダンテ・マ・ルバート、ニ短調 4/4

幻想的な雪凍るフィンランドを想像させる交響詩風の楽章である。低弦のピッツィカートにつづきファゴットの憂愁を帯びた音色が主題を奏で、やがて金管が高揚を見せる。

第三楽章…ヴィヴァチッシモ、変ロ長調 6/8

厳しい弦のリズムの上に、軽快に展開するスケルツォ風の楽章であるが A-B-A-B といった形式を示している。スケルツォは男性的でトリオでは、突然ゆったりとした牧歌風の歌が奏でられる。やがて不安な動機に導かれてクレッシェンドが始まり全奏 ff の中、終楽章に突入する。

第四楽章…アレグロ・モデラート、ニ長調 3/2

なだれ込むように開始されたこの楽章は、輝かしい勝利の讃歌と評された第一主題と、切なく心の襞に染み渡る第二主題の対照が効果的である。終末は金管に導かれて雄大なクライマックスを迎えることになる。

高谷 光信



演奏家のための ミツマの直輸入弦楽器

Violin, Viola, Cello

弦
3割引



直輸入でいいものを安く。修理・調整もお任せください。

インターネットで音楽情報を！【クラシック音楽情報センター】<http://www.musicinfo.com>

株式会社 ミツマ・ミュージックプロダクツ 京都：三条駅前 Tel. 075-761-1213

スタッフ

顧問	和田 之宏
代表	小林 香
事務局長	前田 暢
コンサートマスター (古風なメヌエット)	津田 篤太郎
(チェロコンチェルト)	村山 義尚
コンサートミストレス (交響曲第2番)	井上 史

コンサートスタッフ

チーフ	隈部 洋平
ステージマネージャー	宇佐美 勝也
パンフレット	平本 知子
	松村 朋美
	村上 直
チケット	酒匂 美奈子
	若林 稔
受付	上田 珠子
	野口 彩子
打ち上げ	長谷山 智仁
楽器手配	榊原 佐知子
運搬	中村 郁哉
	石河 大介
セッティング	木下 洋輔
エキストラ	安田 博子
録音・録画	齊藤 圭司
写真	津田 篤太郎

事務局

総務	政岡 潤平
会計	高田 志保
	上田 珠子
	津田 篤太郎
	松村 朋美
ライブラリアン	小又 雄一郎
練習場	小又 雄一郎
	渡辺 美智子
広報	村山 義尚
	井上 あゆみ
	伊吹 勇亮
	谷口 彩
	西村 浩輔
機関誌	村上 直
	高山 泉
合宿	小松 正明
	村上 明日香
賛助会員	坂本 倫子
ホール	長岡 武志

演奏委員会

井上 史	伊藤 文詔	長岡 武志
吉野 仁子	畠山 泉	川原 靖弘
小野田 税	高山 泉	

団員表

Violin

○上田 松子
五十嵐 満美子
井上 あゆみ
井上 史
井上 理恵
岡本 有加
川端 さとみ
北村 典子
小幡 拓也
齊藤 圭司
津田 和子
津田 篤太郎
仲井 淑子
西村 浩輔
野口 彩子
平本 知子
宮下 康子
村山 義尚
吉野 仁子
若林 稔
池田 徹志 (団友)
石関 亮 (団友)
井出野 ひろみ
(団友)
小久保 あおい
(団友)
田中 あゆみ(団友)
坂東 佳子 (団友)
堀口 真仁 (団友)
山口 智子 (団友)
笠 真悟 (団友)

臼井 千晴 (客演)
浦崎 由美子(客演)
片山 晶子 (客演)
三瀬 由紀子(客演)

Viola

○長谷山 智仁
谷口 彩
西川 直哉
村山 義尚
市野 尊彦 (団友)
伊藤 寛 (団友)
川島 朋子 (団友)
久保田 正義(団友)
篠崎 淳 (団友)
富森 麻有 (団友)
原田 久美子(団友)
箕旗 順也 (団友)
宮本 雅子 (団友)
西本 葉月 (客演)

Violoncello

○小野田 税
小松 正明
榊原 佐知子
中村 郁哉
村上 直
石川 愛 (団友)
武田 暢生 (団友)
徳永 裕己 (団友)
濱本 早都子(団友)
村上 曜 (団友)

Contrabass

○伊藤 文韶
石河 大介
John Greenhalgh
安田 博子
吉本 政弘
河野 智郎 (団友)
昌山 淳一 (団友)
谷口 理保 (団友)

Flute & Piccolo

○隈部 洋平
酒匂 美奈子
島山 泉
逸見 正憲
政岡 潤平
松村 朋美

Oboe

○中木 明日香
大島 弥州夫 (客演)

Clarinet

○山下 由美子
佐藤 郁子
武田 勝正

Bassoon

○高山 泉
永井 華代 (団友)
新井 美奈子(団友)

Horn

○木下 洋輔
芦原 俊平
木下 高好
小又 雄一郎
長岡 武志
藤原 義和
前田 暢

Trumpet

○渡辺 美智子
遠藤 啓輔
小林 香
村上 明日香

Trombone

○名嘉原 忠博
宇佐美 勝也
川原 靖弘
坂本 倫子
中井 貴信

Tuba

○小島 忠司
坪内 大輔

Timpani & Percussion

○河野 美代子
草場 直也

Harp

坂 詩織 (客演)

○…パートリーダー

謝辞

当団の活動に多大なご支援を下さいました高瀬博章様にこの場を借りて御礼申し上げます。

第4回定期演奏会のお知らせ

1998年11月29日(日) 京都コンサートホール 大ホールにて
サンサーンス 交響曲第3番「オルガン付き」他

指揮：藏野雅彦

1998年の4月下旬にも、演奏会が行われます

ベートーヴェン 交響曲第7番・イベール ディヴェルティメント 他
指揮：高谷 光信

新入団者 募集中

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス
オーボエ・クラリネット・ファゴット・トランペット・パーカッション
弦楽器は、初心者も歓迎します。
管楽器は、オーディションがあります。
連絡先：政岡 (075-982-5039)
小林 (jg3057@mail2.doshisha.ac.jp)

賛助会員募集中

フィロムジカの活動に協賛して下さる方を募集しています。

年会費 個人会員：1人につき ¥4,000-

ペア会員：2人で ¥7,000-

Jr. 会員：高校生以下1人で ¥2,000-

特典

- ・年2回の定期演奏会にご招待します。
- ・会報にて、演奏会などの情報を案内します。

興味がありましたら、坂本 (075-406-2600)

小林 (jg3057@mail2.doshisha.ac.jp) まで気軽にどうぞ。

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

小林祐史写場

(駐車場有)

〒604 京都市中京区寺町通丸太町下ル
電話 (075) 231-1471
FAX (075) 231-1471

Italian, French & German
STRINGS and BOWS
and other kinds of musical instruments



Americaya
KYOTO SINCE 1945



アメリカヤ楽器店

〒603 京都市北区地下鉄北大路駅前
TEL 075(441)2341 FAX 075(414)0010

＜音楽教室のご案内＞

バイオリン（ヴィオラ）ヴァイオリン・チェロ・ハープ類ほかを調音しております。
お気軽にご相談下さい。



近代オートメーション化（食品衛生優良店）
委託給食・行楽弁当・幕の内・折詰・仕出し

大都給食株式会社

☎(075) 641-8286 FAX.(075) 641-8699

京料理 大都

☎(075) 642-1500 京・伏見区深草川久保町8
(警察学校西隣)

印刷のことなら何でもおまかせ

大地社

〒602 京都市上京区河原町通荒神口上ル二筋目東入ル

TEL (075) 231-1727
FAX (075) 256-4604

弦楽器 修理・調整・製作・輸入・販売

イチイ ヒロキ
violin workshop

ヴァイオリニスト&製作家として、イタリア生活9年の経験が、
あなたの演奏をお手伝いします。



- ◆ 出町柳店
〒602 京都市上京区寺町通今出川上ル表町31
Tel & Fax: 075-251-0724
- ◆ 洛西事務所
〒610-11 京都市西京区大原野西竹の里町1-14-79
Tel & Fax: 075-335-2364
- ◆ 携帯電話: 030-628-0863
e-mail: fontana@x.age.ne.jp
http://www.age.ne.jp/x/fontana/

Violin Shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

渡辺弦楽器工房

京都市中京区高倉夷川上ル福屋町728-4 〒604 ☎075-211-0116
西宮市大井出町7-23 〒662 ☎0798-70-2006
FAX 0798-70-2009

FREE WAO CNET
フリーウェイ 日本教育旅行

京都府知事登録第6号

日本教育旅行

京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入

0120-040566

合宿・ゼミ旅行・スキー・海外旅行 etc
お気軽にご相談ください

合宿・研修に、ぜひどうぞ!!

びわ湖 **千鳥荘**

滋賀県滋賀郡志賀町南浜 403
Tel/Fax (077) 594-0035

御装束、絡子の
お仕立は

京都、日吉町 吉野隆
TEL 0771(73) 0193

1997.11.22 19:00

長岡京記念文化会館